

～共創のまちづくり拠点整備ワークショップ～

リノベーション・ラボ

RENOVATION LAB. FOR CO-CREATION SPACE

NEWS LETTER

第3回：センターの管理運営について話し合おう！

8月5日、夏休みの土曜の午前中、コミュニティセンターにて、今年度3回目の「リノベーション・ラボ」を開催しました。参加者は、運営スタッフも合わせ40名でした。

この日のテーマは、「センターの管理運営について話し合おう！」。6グループに分かれて、開館時間と休館日、利用料金、利用のルール、事業内容やサービス、管理運営体制などについてのアイデアを出し合い、最後に「管理運営で大切にしたい方針★ベスト3」にまとめて全体発表＆共有。さまざまな立場や視点からの多様な意見が出され、アイデアが重なり広がって…まさに『共創！』を感じる素晴らしい会になりました。

1 はじめに

事務局 三宅さんより、愛知県がソフトバンクと組んで整備を進めている日本最大のインキュベーション拠点施設「STATION Ai」について紹介！



名古屋市の鶴舞公園南側に整備中の「STATION Ai」は、愛知県が新しいビジネスを起こしていこう、と整備を進めている日本最大のインキュベーション拠点施設です。スタートアップ企業がたくさん集まるので、北名古屋市の共創のまちづくり拠点も愛知県と手を組み、こういった企業と連携・共創していけないかなと思っています。

2 グループワーク「中身が大事！管理運営のあり方は？」

6班に分かれ、開館時間と休館日、利用料金、利用のルール、事業内容やサービス、管理運営体制などについて個人のアイデアを出し合って、最後にグループで「管理運営で大切にしたい方針★ベスト3」をまとめて全体発表しました。以下は、発表内容と、グループで合意したアイデアを抜粋して記載しています。（文末の【1】～【6】はグループ名）

1.開館時間

- ・9時～21時。もしくはもう少し長いといい【1】
- ・9時～21時が現実的という声が多かったが、BARなどできるよう、月1で遅くまで利用できるなどできたらいい【6】
- ・個人的な意見ですが、スペースによって24時間使えたり、利用時間が違うといい【3】
- ・多世代がいつでも使える場所としては8時～22時がいいのでは【2】



休館日

- ・土日は開けてほしいという意見が多かった【1】
- ・個人的な意見ですが、休みを隔週で休みをずらしていったりできるといい【3】
- ・夏休みGWなどは休館日や開館時間を変更【5】

2.利用料金の考え方

- ・マナーを守って長くきれいに使っていくため、入場料を設けて制限をかけたい。【5】
- ・質の良いサービスには高い料金を払って当然。サービスによって料金を変えるなどして、高く設定してもいいんじゃないか【3】
- ・1日中使えるフリーパス3000円/月、昼間だけのデイパス1500円/月、30分250円といった一般的なコワーキングスペースの料金の他に、学生・子ども、メンバーシップ登録者は無料で使える制度はどうか。【1】
- ・学割や企業協賛割等、使ってもらいやすい料金体系【3】
- ・基本無料、一部有料。広告も展開するといい。【6】
- ・利用の内容（用途ごと）に合わせた料金プラン【2】
- ・やりたいこと、ほしいもの貯金箱をつくる【2】
- ・協働、企業との協力で魅力UP!!例えば企業から協賛をもらうのもよりよい運営していくためには良い。【3】



3.利用のルール（みんなで気をつけたいこと）

- ・空間、雰囲気、サイン計画で自然に守りたくなる、守ってた！となるようなハードの導き+ソフトの導きができるといい。【1】
- ・多様な世代にわかるサイン、ピクトグラムや床の色分けなど。外国人でも誰でもわかるように。【4】
- ・クリエイティブな場所はあまりルールない方がいいんじゃないか。ネット予約ができると、施設の利用効率が上がっていく【2】
- ・ルールやマナーを考えて学べる場があるといい。こどもも考えて学んでいけるといい。子どもがルールを学ぶためのセルフサービスの場があってもいいという話も出ました。【6】
- ・登録制にしたい。変なことをしないような備えにもなるし、ケガなどの有事の際の緊急連絡先にもなる。登録ツールは、利用しやすい方法を考えていきたい。【5】
- ・利用者登録と子どもの利用時間分けをしたい。怪しい団体が勧誘をすとかがないよう制約していく必要もある【4】
- ・IDで管理を【3】



5.スタッフや職員は？ 運営組織のあり方は？

- ・個人的には、市職員以外の方が関わるといいと思う。例えば地域のエリアマネジメント組織や NPO 法人がここを活動拠点として地域の人をつなげる。ここでまちづくり活動を展開し、組織として育てていくといい。【2】
- ・指定管理も一長一短。市職員が常にいた方が、市役所も混じって共創していけるという利点も【6】
- ・市職員+主軸となる団体がいて、事業者やボランティア団体などにアウトソーシングしていく。関係人口を増やし、ここに関わっていると仕事にもなる、強みを活かせる、と人材バンクの架け橋になるような形ができるといい。【4】
- ・ボランティアを運営に活用することで、人件費の削減にもなるし、体験から学ぶ場になる。【6】
- ・専門性の高いスタッフが常駐。看護師や保育士、児童支援員や心理士など福祉的なサポートも充実しているといい。【6】
- ・ユーチューバーを取り込もう【4】

■ ひとことアンケートより

中学生の方や、様々な所属の方々と一緒にまちづくりについて考えられたことが刺激になりました。ワークショップの中で出たイベントのアイデアは自分の仕事でも役立ちそうだなと思いました。これからどんどん、おもしろい人の輪を広げて、楽しいまちにできたらうれしい／他の人の意見を聞くことで、考え方が広がって、より深く考えられました。共創というものをこのワークショップが体現しているなと思いました。進行が和やかで、初めての参加でしたが楽しかったです／市役所だけでなくみんな（市民）がまちづくりに加わるのが共創だと感じることができました。「それいいね！」とみんなで受け入れる空間がとても良かったです／テーブル毎や会場全体で共創している感じが得られた。まとめあげるのは大変だと思うけど、出来上がるのが楽しみ／何か新しい北名古屋がとても楽しみです。自分に何ができるのかも合わせて考えていけたらいいなあと改めて考えました／難しいよりわかりやすく、ルールも大事だけど楽しさ、そして柔軟にゆると、大切だと思いました ほか

4.事業内容・サービス 周辺施設や団体との連携

- ・避難訓練としての宿泊体験、国際交流など、様々な取り組みが展開したい。【2】
- ・市長との交流会を定期的に行けるといい。「会いに行ける市長」という場所を作れるといい。【1】
- ・不登校の子の学習支援、学校と連携してキャリア教育や職業体験などに活かしていけるといい。【6】
- ・市民が先生。趣味を共有する場を設けたい。高校生が塾をする話を聞いておもしろいと思った。掲示板などつくるのもいい。【5】
- ・クリエイティブスペースをはじめとした芸大との連携。発表やモノづくりなど、相互補完するような利用の仕方を。【1】
- ・市内外問わず、おもしろい団体と連携して定期的にイベントしたり、スタッフや職員に加えることで、密に市民と関われるのではない【5】
- ・①それぞれの個性を出せる場所。②利用者の自立尊重③地域の事業を活性化させる【2】
- ・試乗車やレンタカーで送迎するサービスがあるといいよね、という話もありました【3】



6.その他

- ・「みんな」ではなく、「目的」を持った「みんな」にフォーカスして考える。ただの「みんな」ではぼやけてしまう。例えば、年齢層ではなく「共創したい人」を目的にして考えると、プランやソフトももっと変わってくるのではない【1】



次回リノベーション・ラボ④

「センター設計中間おひろめ会 & 家具を選ぼう！」

9月21日(木) 9:30~正午
名古屋芸術大学アートスクエアにて

まちづくりや社会貢献に関心が高い
みなさまの参加をお待ちしています！
知人への紹介、情報拡散大歓迎！



お問い合わせ：

北名古屋市役所総務部 総務課(三宅)

☎ 0568-22-1111

✉ katudo@city.kitanagoya.lg.jp